

エクセルファイルにてご回答いただける方は、以下の URL からダウンロードをお願いいたします。  
<http://www.kawai-juku.ac.jp/research/unv/> ( 短縮 URL <https://goo.gl/69qLTX> )

【C2】 Ver.10

# グローバル社会に対応した大学教育調査

本質問紙は学長に対して回答をお願いしています。

■2016年度の貴学についてお答えください。

全学調査用

大学名 \_\_\_\_\_ 2016年度入学者定員 \_\_\_\_\_ 人

■ご回答くださった方についてお答えください。

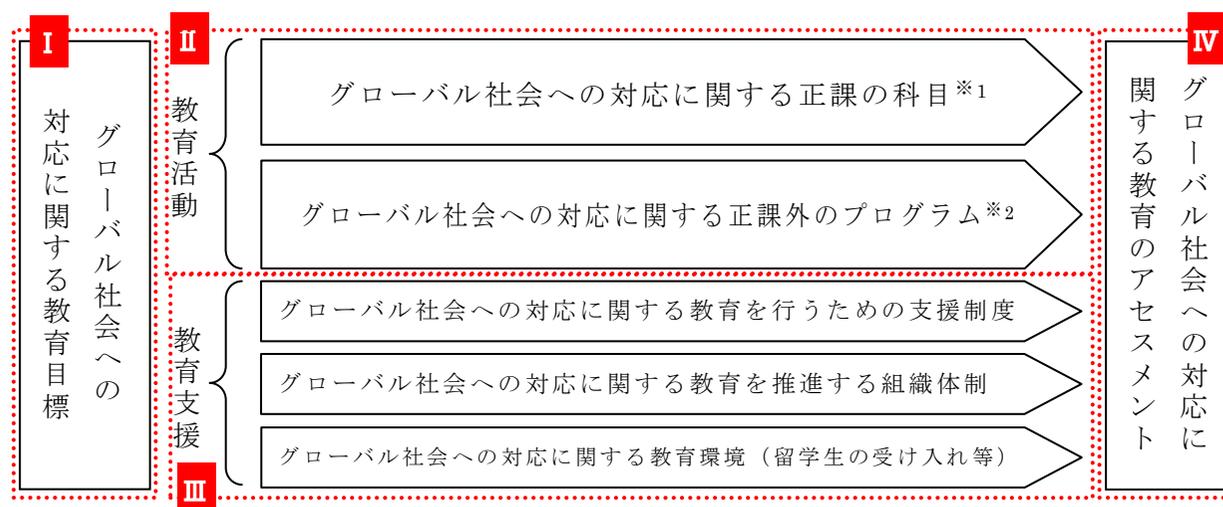
ご回答者	所属		(フリガナ)	
	役職		お名前	
ご連絡先	TEL		FAX	
	e-mail			
ご住所	〒			

※ ご記入いただいた個人情報は、ご回答内容に関する問い合わせ、調査報告書の発送、及び、今回調査報告に関する案内のためだけに使用いたします。

河合塾

## 調査説明 1：本調査で対象とする領域

本調査でご回答いただく項目とそれらの関係は以下の図のとおりです。なお、破線の枠囲みの右上にあるローマ数字は、それらを問う設問番号です。



※1 正課の科目：単位化されている科目・プログラム。単位化されている場合には、海外留学・海外交換留学プログラム、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティアも含まれる。

※2 正課外のプログラム：大学によって提供されているが単位化されていないプログラム・取り組み。例えば、海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティアなどが該当する。

ご記入いただく科目・プログラムのいずれも、扱う言語は英語のみとします。このように設定した理由は次のとおりです。

- ① 3つ以上の母語を持つ人たちがコミュニケーションを取る場合、世界共通語としての英語使用が一般化している。
- ② 文部科学省も世界共通の言語として英語教育に注力している。
- ③ スーパーグローバル大学等事業でも英語に絞られている。

なお、科目やプログラムで扱う言語が英語以外の場合には、最終頁のV-1にその内容をご記入ください。

## 調査説明 2：教育活動における科目・プログラムの分類

教育活動における科目・プログラムについては以下のような分類で調査します。破線内にあるローマ数字と算用数字は、その分類を問う設問番号です。

学修シチュエーション・目的別 学修内容別		国内での学修		海外での学修			
		知識・技能の 修得・定着のための 科目	知識・技能の活用・ 実践のための科目	海外留学・ 海外プログラム	海外インターンシップ・ 海外ボランティア等		
グローバル社会への対応に関する 単位認定される正課の科目	社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力を育成する 正課の語学教育科目	Ⅱ - 1					
	外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の発信を学修する等の、文化比較や異文化対応力を培う正課の専門外科目	Ⅱ - 2				Ⅱ - 4	
	英語で専門知識を学修する 正課の専門科目	Ⅱ - 3					
単位認定されない正課外のプログラムに関する	<p>【国内でのプログラム】 留学生と日本人学生による、あるいは地域コミュニティでの異文化理解に関する取り組み、NGO や公的／民間の組織と連携した取り組み</p> <p>【海外でのプログラム】 海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティア</p>	Ⅱ - 5					

※本調査では、学部長に対する質問紙調査も並行して行っています。学長にお願いするこの質問紙には、この表のⅡ-2、Ⅱ-4、Ⅱ-5の質問項目が含まれています（学部長にのみお聞きするⅡ-1、Ⅱ-3に関する質問事項は含まれていません）。

## I グローバル社会への対応に関する教育目標

### 1. 将来目指してほしい人材のイメージ

1) 貴学の卒業生に将来目指してほしい人材のイメージをお教えてください。多くの学生にこれを目指してほしいという主たる想定人材には◎、その他に一部の学生について想定している人材には○を記してください。

人材のイメージ		人材イメージの説明	将来目指してほしい人材 (◎：主たる想定人材、 ○：想定している人材)
A	日本国外で活動できる高度専門職・研究者	国際医療従事者、外国資格の公認会計士、外国資格の弁護士、国外で活動する企業所属の研究者、国外での学会発表や国外の研究機関との共同研究・開発を行う研究者など	
B	日本国外で活動できるビジネスパーソン (エンジニアなども含む)	現地の人々との折衝、現地職員のマネジメントを伴う海外勤務者、プラントやインフラなどの構築物の建設およびメンテナンス、生産技術、システム開発などの技術者業務を海外で行うエンジニアなど	
C	日本国内で外国人・海外法人に対応できる人材	国内で活動し(都市部に限らず地域社会でも)、外国人・海外法人とのコミュニケーションを行う人材、地域のグローバル化を担う人材など	
D	グローバル社会に対応する人材像は特に意識していない		

2) グローバル社会への対応という観点から、貴学が考える卒業生に将来目指してほしい人材のイメージが設問1)以外にあれば、以下に自由にご記入ください。

## 2. グローバル社会への対応に関する教育目標と、涵養を目指す能力（全学的な教育目標）

以下にグローバル社会への対応にかかわる貴学の教育目標を記入し、その教育目標は①社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力、②社会・文化・歴史などを踏まえた異文化対応能力、③専門知識・技能に関する英語による理解・発信力のうちの、いずれの能力の涵養に該当しますか。最も近い能力に○を記入してください（複数能力への回答可）。

グローバル社会への対応に関する、明文化されている教育目標 (ディプロマポリシー、身に付けさせたいコンピテンシー等)	①	②	③
	社会や個人生活において適切にコミュニケーションできる英語能力	社会・文化・歴史などを踏まえた異文化対応能力	専門知識・技能に関する英語による理解・発信力

## 3. グローバル社会への対応に関する教育目標を達成するための、カリキュラム設計上の工夫

上記教育目標を達成するために、全学のカリキュラム全体としてどのような設計上の工夫をしていますか。

(例：副専攻プログラムなども含めて、大きな仕組みについてご記入ください。また、英語科目に限定したカリキュラムの工夫は設問Ⅱの項目で別途質問します)

## II グローバル社会への対応に関する教育活動

1. (学部長への質問のため、省略します)

2. 外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の発信を学修する等の、文化比較や異文化対応力を培う正課の専門外科目

国内・キャンパスで、グローバル化に対応した人材を育成するために全学組織が提供する正課の科目(必修か選択かに関わらず)についてご記入ください。(外国の社会・文化・歴史の自文化との対比・比較を学修する、または日本文化の英語での発信等の、文化比較や異文化対応力を培う科目を含みます)

該当する科目は何科目ありますか。 科目 該当する科目のすべて、または代表的な科目の例について以下に記入してください。

年次	履修時期※1		科目名 プログラム名	科目区分 (いずれかに○)		単位数	クラス数※2	1クラス当たりの学生数	履修状況		目的 (いずれかに○)		文化比較や自文化の相対化を促す取り組みについての内容	当該科目・プログラムと関連する科目プログラム	授業での使用言語 (いずれかに○)			
	学期			全学共通科目	履修学部を限定している科目				必修／選択	選択の場合の履修率 (%)	外国の社会・文化・歴史に関する知識・技能の活用・実践※3	外国の社会・文化・歴史に関する知識・技能の活用・実践※3			日本語のみ	英語のみ	英語と日本語	その他※4
	前期	後期																
									x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80									
									x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80									
									x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80									
									x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80									
									x<20 20≦x<40 40≦x<60 60≦x<80 x≧80									

※1 履修時期では、年次欄には履修を指定あるいは推奨している年次を記入してください。学期欄には、配当している学期に○、通期開講の場合には前期・後期の両方に○、3学期制の場合の1学期は前期、2・3学期は後期として記入してください。

※2 クラス数欄には、複数のクラスに分かれて実施している場合にはそのクラス数を、単一クラスには“1”を記入してください。

※3 目的での活用・実践とは、プレゼンテーションやPBL(Problem/Project Based Learning)などを行うことを示し、ここでは、その科目・プログラムの目的が近い方に○を記入してください。



### 5. 単位認定されない正課外のプログラム

全学組織が提供している、グローバル社会への対応に関する単位認定されない正課外の代表的なプログラムをご記入ください。理工系等で6年一貫教育を掲げている大学は、6年間のプログラムについてご記入ください。

例) 日本への外国人留学生と日本人学生による、あるいは地域コミュニティでの異文化理解に関する取り組み、NGOや公的/民間の組織と連携した取り組み、海外留学、海外プログラム、海外インターンシップ、海外ボランティア等、単位化されていない取り組み

プログラム名	参加者数 (例年の平均的 参加人数)	期間 (いずれかに○)					場所 (いずれかに○)		内容	連携先組織 (該当するものに○。複数回答可)						
		1 ヵ月 未 満	3 ヵ月 未 満	6 ヵ月 未 満	1 年 未 満	1 年 以 上	国 内	海 外		大 学	語 学 学 校	国 際 機 関	行 政 機 関	N N P G O ・	海 外 企 業	日 本 企 業

### Ⅲ グローバル社会への対応に関する教育支援 (全学的な取り組みについてご記入ください)

#### 1. グローバル社会への対応に関する教育を行うための支援制度

例) ポイントなどを取り入れた表彰制度、海外留学に関する奨学金制度、海外留学をしやすいカリキュラム設計やクォーター制の導入、海外留学希望者のCAP制免除、海外留学での海外生活を支援するサービス・仕組みなど

1) クォーター制を導入していますか。 導入している・導入していない

2) 海外留学希望者のCAP制免除の制度はありますか。 ある・ない

3) カリキュラムのナンバリング・GPA・成績評価等、国際化に向けた対応の取り組みがあれば具体的にご記入ください。

4) 学士課程において、ダブルディグリー・ジョイントディグリーの仕組みがありますか。あれば以下に具体的にご記入ください。

--

5) 海外留学に関する奨学金制度にはどのようなものがありますか。

貸与型・給付型・ない (いずれかに○を記入し、以下に具体をご記入ください)

--

6) 海外留学での海外生活を支援する、留学先(現地)でのサービス・仕組みがあれば教えてください。

--

7) 国内での日本人学生と留学生との交流の仕組み(例:ピアサポート、バディ制度、留学生との混住型学生寮等)があれば教えてください。

--

8) 日本人学生と大学外の外国人との交流の仕組みがあれば教えてください。

--

9) 上記以外にグローバル社会への対応に関する教育を推進するための支援制度・仕組みがあれば教えてください。

--

2. グローバル社会への対応に関する教育を推進する組織体制

海外留学の相談、留学した学生のサポート、海外留学・プログラムにおける提携先機関の開拓等を担うような全学組織についてご記入ください。

組織名	人員 (人)				ミッション・機能
	教員		職員		
	全人員	うち専任	全人員	うち専任	

3. グローバル社会への対応に関する留学生の受け入れ等の状況

1) 受け入れている留学生の状況について、全学的な人数をご記入ください。

① 2015 年度中に受け入れた留学生の人数

外国人正規入学者数 \_\_\_\_\_ 人 (2015 年度の在籍者数) 交換留学生数 \_\_\_\_\_ 人 (2015 年度全体で)

上記以外で、単位取得を伴う留学生 (具体的に) \_\_\_\_\_ 人 (2015 年度全体で)

② 出身国上位 5 カ国 \_\_\_\_\_

2) 留学生の受け入れ体制について教えてください。具体的には、関連組織（組織名、機能）、大学として受け入れている留学生のサポート・サービスなどについてご記入ください。

#### IV グローバル社会への対応に関する教育のアセスメント

##### 1. グローバル社会への対応に関する教育目標のアセスメントの仕組み

1) 貴学に、グローバル社会への対応に関する教育目標の学生における達成度、成果を測定する仕組みがあれば、具体的にご記入ください。

2) 貴学に、グローバル社会への対応に関する教育目標の達成度をアセスメントし教育改善に資する仕組みがあれば、具体的にご記入ください。

## V その他

### 1. 英語以外の語学教育

グローバル社会への対応に対応した教育で、科目やプログラムで扱う言語が英語以外の場合、その言語名と、カリキュラム設計上工夫されていることを教えてください。

### 2. 第二外国語の位置づけ

全学的に、学士課程の中で第二外国語をどのように位置づけていますか。また、今後どのようにしていくご予定か、貴学のお考えを教えてください。

### 3. その他の取り組み

その他の全学的なグローバル社会に対応した大学教育に関する取り組みがございましたら、以下にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。